

内地產虎斑竹ト臺灣產豹紋竹トノ寫眞

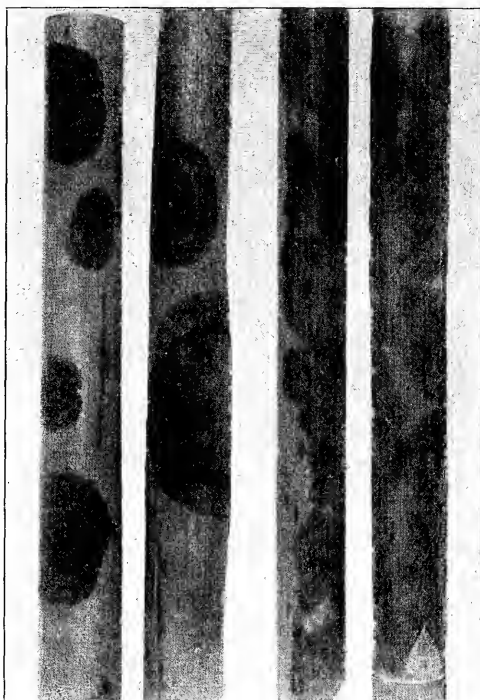
とごけトハ外形甚ダ異リ寧ロ甚ダ屢々前種ト混雜サル、ニヨリ如上ノ新和名ヲ撰シテ次第デアル、本地衣ハ吾國各地ニ最モ普通ナル種ニ屬シ往々掌大ニ廣ガルモノアリ多數ノ瓣片ニ分レ表面灰褐色乃至褐色裏面ニ暗褐色ノ絨毛ヲ密生シ邊緣ニ黃金色ノ粉芽ヲ以テ緣取ルコトさんぶちごけト同ジ、裏面ノ擬盆點亦黃粉ヲ吐ク、但さんぶちごけノ綠顆粒ガ原球藻デアルニ對シコレノハ念珠藻デアル、本種ニ二變種アリ邊緣並ニ裏面ニ粉芽ヲ有スルモノヲ *var. aurigera* Del. トナシ粉芽邊緣ノミノモノヲ *var. xantholoma* Del. ト云フ、然シ中間ノモノ亦尠ナカラズ、又本種ノ子器モ矢鱈ニ出會ハナイモノデ予ハ富士須走、臺灣デ見付ケ前原勘次郎君ハ肥後デ之ヲ獲タ、ツアールブルックナ博士ハ余ノ送ッタ富士產標本ノ有子器ノモノヲ *Sticta crocata* Ach. ト檢定シタガドウモ納得シ兼ネル *S. crocata* モ外見大ニ似テ居ルガ胞子ガ二室デ *Mougeotiana* ノ四室ナルノト異ル而シテ余ノ標品ハ幼稚ノモノハ二室デアルガ充分生育シタ胞子ハ皆四室デアルカラデアル、にせさんぶちごけノ「ゴニデア」層ニ接スル髓層ノ菌絲中所々ニちよろぎ形ヲシタ膨脹セル細胞ガアル、コレハ *crocata* ニモアルガさんぶちごけ (*S. aurata*) ニハナイ

### ○内地產虎斑竹ト臺灣產豹紋竹トノ寫眞

理學博士 川 村 清 一

本誌第四卷第五號ニ載セタル拙稿『臺灣產斑竹(豹紋竹)菌ノ卑說』ノ中ヘ内地產虎斑竹ト臺灣產豹紋竹トノ寫眞ヲ入レテ置イタガ更ニ別ニ此二ツヲ撮影シタカラ重出ニハナルガ無イヨリハ有ル方ガ參考ニナルト思ヒ重複ヲ厭ハズ再ビ此處ニ掲出シタ

即チ A ハ内地產虎斑竹デ菌絲塊ヲ除去シ磨キテ其斑紋ヲ現出セシメタモノ  
B ハ同ジク菌絲塊ガ附着シタ天然ソノマヽノモノデ共ニ寄生ノ竹ハなりひらだけ即チ *Semiarundinaria fastu-*



(川村原圖)

osa MAKINO. テアル

a ハ臺灣産豹紋竹デ菌絲塊ヲ除去シ磨キテ  
斑紋ヲ現ハシタモノb ハ同ジク菌絲塊ノ附着セル天然ノマ、ノ  
モノデ共ニ其寄主ハ臺灣所産ノ竹せきかく  
ちく即チ Bambusa Shimadai HAYATA. デ  
アル

## ○瑞西ニテウワウルシ

## 採種ノ記

【牧野曰フ、左ニ掲グル藤田、關根兩君ノウワウルシ  
ニ就テノ記事ハ今獨逸ニ留學中ノ藤田直市君カラ東  
京帝國大學理學部小石川植物園ノ松崎直枝君宛テ同  
園ヘウワウルシノたれヲ送り來ッタ時ソレト一緒ニ

送り越シタモノデ松崎君カラ我が植物研究雜誌ヘ轉送シテ來タカラ喜ンデ此ニ載スルコトニシタ尙右藤田君ノ書信ノ中ニハ「此植物は利尿藥  
殊に癲病にサントール(白檀)油と併用するので利尿に兼て尿道の防腐藥とするのです。我國にはないので樺太の北に工藤氏が見附けた者です  
それでも日本へは年額少くも十萬圓多ければ十數萬圓の輸入のある品です十萬圓は少い様ですが過去二三十年に三百萬乃至五百萬圓の金が出  
て居ますので今度探した譯です幸に入手しましたので御送りしますが生育状態や其他の事情を二重に述べるのも面倒故私共の苦辛と生育状況  
を一應同封原稿で御了解願ひたいのです……ウワウルシの種の輸入は從來寡聞にしてまだ知りませぬ自分等が初めかも知りませぬ萬一貴君  
が発芽せしめないと本當に恨みますよ全く命懸けて取ったのですハ、ハ、ハ、所て私の考へては高山にあり伯林ダーレムの植物園ではロックガーデン  
にありませんからこれは植物園ならロックガーデン或は日光の方にやり發芽後は適當な所(高山(保護地))へ植ゑて野生状態とし五十年百年の